

業務課題の構造と「仕事ナビ」構想による未来像

本資料は、社会福祉法人風の村の管理本部における業務ヒアリングの結果をまとめたものです。
ヒアリングから「多重入力」や「属人化」といった問題の根底にある3つの構造的課題を特定し、それらを解消するための新しい業務基盤「仕事ナビ」構想を提案しています。

ヒアリングで見えた3つの構造的課題



データの分断：
多重入力と手作業が
常態化

システム間の連携がなく、紙記録作業が多発。
経営判断に必要な情報提供も遅延。



知識の属人化：
個人のスキルに依存し、
組織の資産にならない
ルールやノウハウが個人の頭の中にあり、
担当者不在で業務が澤るリスクを使える。



曖昧な業務プロセス：
依頼と実行の関係が不全で
手戻りが頻発

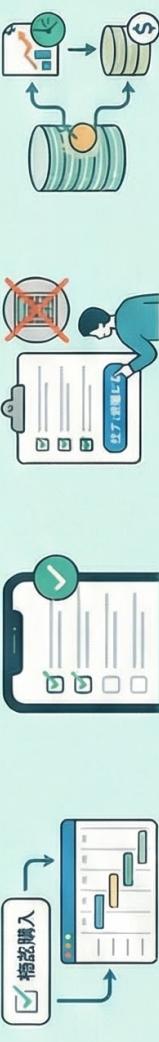
作業指示が不明確なため、確認や修正が多
発し、業務の優先順位も曖昧になつていて
いる。

解決策：「仕事ナビ」が実現する新しい業務の3原則



全業務を「計画」として登録し
「実績」を紐付けることで、
費用控除などを自動化する。

「仕事ナビ」の仕組み：仕事はこう変わる



1. 依頼をトリガーに
計画が自動解説
「物説明入り」などの依頼が発
生すると、必要な作業計画が
自動で作成される。
2. 条件が整うと
To-Doリストに配信
To-Doリストに配信
社工が送れるなど条件を満た
したタスクだけが、担当者のや
るべき仕事リストに表示される。
3. 担当者は実績を
入力するだけ
リストの仕事が終了したら
「実績」を入力。遅延な計算
や判断は不要になる。
4. 復工程の処理は
システムが自動実行
入力された課題に基づき、
合計処理やきの担当者への連
絡が自動で行われる。